

壮絶！インカレリレー！

木村佳司

今年のインカレリレーは壮絶な競い合いの結果、京都大学と日本女子大学が優勝した。愛知の森の中は、ぶつかりあう魂で熱くなった！

2006年3月12日 愛知県岡崎市
日本学生オリエンティング選手権 2005
リレー種目



逆転優勝を決め、拳を突き上げる
京都大学アンカー 大西康平

京都男子 逆転勝利

会場がどよめいた。最終ランナー、東北大学・後藤大輔に京都大学・大西康平が追いつき並んで最終ビジブルコントロールを通過したのだ。コースはもう一度森に入るため、選手は観客の視界から消えてゆく。どちらが先に会場に姿を現すのか…。2分後、会場に飛び込んできたのは、京都大学の大西康平。ウイニングランができないほどのスピードでレーンを駆け抜け、歓喜に沸く京都大学の輪の中で宙に舞った。

リレー男子選手権

| | | |
|---|-------|---------|
| 1 | 京都大学 | 2:39:30 |
| 2 | 東北大学 | 2:39:44 |
| 3 | 東京大学 | 2:48:08 |
| 4 | 静岡大学 | 2:51:06 |
| 5 | 名古屋大学 | 2:53:34 |
| 6 | 北海道大学 | 2:54:02 |

レース前の下馬評では、男子リレーは前回インカレ覇者の東北大学と京都

大学の一騎打ちだと噂されていたが、本当にそのとおりの展開となった。実力互角、どちらが勝ってもおかしくなかった。



東北大学アンカー 後藤大輔
フィニッシュ直後、天を仰ぐ。全力を尽くしたインカレ団体戦。敗れたがその勇姿は多くの者に力を与えた。

レースの1走を引っ張ったのは、図書館情報大学の高橋雄哉。図書館情報大学の名前で走ることができる最後のインカレリレーだ。メンバーが少ない中、最後のリレーに参加しようと集めたメンバーで臨んだ。高橋雄哉の1走トップゴールも目立ったが、メンバー全員でちゃんと完走できたことは素晴らしい。

2走からは東北大学に続き、2番手で北海道大学がレースを引っ張る。男女を通じて北東学連の活躍が目立ったインカレリレーだった。

地元の東海学連・静岡大学と名古屋大学が入賞を果たした。その一方で最大勢力の関東学連の入賞は東京大学1校のみと寂しい結果に終わった。

入賞大学インタビュー

1位 京都大学 1走 高田智実

トップ集団で帰ってくるつもりが置いていかれた。これで負けたら悔やんでも悔やみきれないと思った。2走・3走ががんばってくれた。

1位 京都大学 2走 津國真敏

今年に入ってから就職活動で満足にトレーニングできず不安があったが、満足できるレースができて嬉しい。

来年も絶対に優勝する。期待してほしい。そのためには意識を高めあって、底上げをしたい。

1位 京都大学 3走 大西康平

2分差で東北の後藤さんを追う展開だったが、なかなか追いつけなかった。後藤さんがミスをしたところで何とか追い抜くことができた。京都大学のこの勢いを続け、来年も優勝する。



京都大学を優勝に導いたメンバー
(津國真敏/高田智実/大西康平)

2位 東北大学

2人がいい流れで繋いでくれて、いい走りを後輩に見せることができた。再び挑戦者として新しいスタートを切った。層の厚さでは負けないので来年は優勝してくれると思う。

3位 東京大学

優勝をめざしていたが京都と東北にスキがなかった。若い選手が育っているので東大に期待して欲しい。来年もがんばる

4位 静岡大学

自分の走りをした結果が入賞だった。

5位 名古屋大学

名古屋大学の入賞は20年ぶりだ。(1986年3月駒ヶ根高原での優勝)

後輩たちにハッパかけたこの1年間の甲斐があった。1・2走で耐えてくれた。後輩たちはまだ若いので今後がんばってほしい。

6位 北海道大学

北海道大学は昔5位に入賞したがそれ以来。一時は廃部の危機に面した時もあった。入賞できて良かった

女子リレーは本女が辛勝

女子は予想通り日本女子大学が優勝した。しかし結果は誰もが予想した圧勝ではなく辛勝。追いつかれながらも前半の貯金とライバルの失格に助けられて辛うじて優勝を掴んだという結果になった。

リレー女子選手権

| | | |
|---|--------|---------|
| 1 | 日本女子大学 | 2:59:01 |
| 2 | 奈良女子大学 | 2:59:44 |
| 3 | 宮城学院女子 | 3:05:14 |
| 4 | 岩手大学 | 3:07:36 |
| 5 | 筑波大学 | 3:11:04 |
| 6 | 新潟大学 | 3:20:57 |

1走。日本女子の朴峠周子と静岡の中島亜香音がほぼ同時に戻ってくる。3位との差は6分もある。日本女子は最初からいい形でスタートを切る。

2走。あとが続かない静岡はここで後退。昨日のミドル優勝者・日本女子の石山佳代子がぐんぐん引き離し、2位の宮城学院女子との差は10分にまで広がる。「予想通り圧勝」誰もがそう思った。

何が起ころのか判らないのがリレー競技だ。優勝の期待を背負った日本女子3走の橋本陽子が序盤で大きなミス。今までの貯金をすべて使い切ってしまう。

ここで見せたのが東京農工大学。3走の志度裕子がまくって、最後のピブル区間から一気に日本女子大学を抜き去り全速力で会場に突っ込んできた。



東京農工大学、志度裕子の気迫で大逆転。しかしインカレ優勝は幻に

フィニッシュに崩れる橋本陽子。しかし次の瞬間、日本女子大学優勝のアナウンスが流れた。東京農工大学は2走がコントロール不通過で失格の判定。東京農工大学のインカレ優勝は幻へと

消えた。幻だったが、目の前で素晴らしいレースを見せてもらった

その直後には奈良女子大学が秒差で2位に飛び込んだ。宮城学院女子大学は3位。メダルを獲得した大学は全て女子大学となった。

4位には岩手大学が初入賞。白倉由紀が最速の52分台を叩き出し、入賞圏外だった岩手大学を一気に表彰台へと導いた。岩手大学はすべてのメンバーが3年生と2年生。この勢いがあれば来年はもっと期待できる。



抱き合って喜ぶ岩手大学

表彰式インタビュー

1位 日本女子大学 1走 朴峠周子

嬉しい。連覇するにはそれなりのチーム作りと信頼が重要だった。去年から口では言い表せないくらい準備をしてきた。1走で走ったときのイメージトレーニングをたくさんしてきた。そして自分をびたりとコントロールできた。



朴峠周子、じっくりと後方からスタート

1位 日本女子大学 2走 石山佳代子

今日は楽勝かと思ったけどリレーは何が起ころかわからなかった。4年生の最後に3人で走れてこうして優勝できて良かった。昨日の優勝の喜びは半分で、今日のリレーで優勝できて初めて嬉しい。

1年生のとき、愛知インカレで先輩たちの走りを見てこの4年間がんばってきた。私たちの走りを見て後輩もがんばってくれたらとても嬉しい。

1位 日本女子大学 3走 橋本陽子

序盤にミスをして、レース中マイナス思考になりそうだった。今できることをやろうと思ってがんばった。みんなのおかげで優勝できたと思う。



優勝した日本女子大学

2位 奈良女子大学

今年一年がんばってきた結果が出て、すごく嬉しくて泣けてきた。後輩に残る素晴らしい姿を見せてくれと言われてがんばった。

3位 宮城学院女子大学

笑顔でインカレを迎え、終われば良いなと思っていた。北東学連がこんなに表彰されて嬉しい。

4位 岩手大学

岩手大学はインカレの表彰台に上るのは初めて。誰がこんなところに登ると思ったでしょう？ 私たちも思いもよらない結果。関係者の皆様、ここに立たせて下さってありがとう。

層の厚さは東北大学

男子では連覇を阻まれた東北大学だが、層の厚さはダントツだ。一般男子クラスの表彰台はすべて東北大学で埋め尽くされた。これには当の東北大学生自身も大興奮。

層の厚さでは文句なし。一般クラスを含め、メダルの数で競う山川杯も当然のごとく東北大に輝いた。



文句なしの山川杯を手にする東北大学 (木村佳司)